

## ハワイ島南コハラでの日食観測記

塩田 和生

7月11日の日食では、私はハワイ島南コハラ地区にある Ritz Carlton ホテルで観測を行った。ここは、日本からの観測旅行の大半が集まったと思われるワイコロアビレッジゴルフコースから約8 Km程西側の海岸に位置しており、日本からは私が参加したグループの他に少なくとも2つ（熊本天文協会、日本旅行）のグループが集まり、薄雲を通してではあったがろうじてコロナを眺めることが出来た。以下に、ここでの観測の様子を中心に私の日食観測記を紹介する。

私が参加した観測ツアーは日通旅行&天文ガイドのツアーで、参加者は添乗員も含めて41名、半数以上が皆既日食は始めてという人達であった。出発は7月9日17:20成田発のユナイテッド830便で、ホノルルで5時間以上待たされた後ハワイ島に向い、昼過ぎにコナに到着。溶岩の中の道路を北へ30分ほど走って、Ritz Carltonホテルに到着した。到着後早速観測地の下見を行い、ホテル側が観測場所として指定している北側のゴルフ場との境界付近を調べ、海岸のすぐ近くが見晴らしもよく足場もまずまずなので、この付近に適当に散らばればよさそうだと判断した。このホテルでは、全部で数百人~千人ぐらいの人が日食観測を行うという話であったが、観測地の広さは十分という感じであった。もっとも、あとで知った事だが、ゴルフ場のあちこちには雨の少ないこの地域で芝生を維持するためスプリンクラーが埋められており、何人かの人がそれと知らずに望遠鏡を設置して突然のシャワーに見舞われるというハプニングがあった。

日食前日の10日には、皆既の時刻に合わせてリハーサルを行った。この時刻には、太陽の方向にあたるマウナケアとコハラ山の鞍部に低い雲は見られたが、太陽のある高度には全く雲はなく、翌日もこの天気なら問題ないのだがということで、機材のチェックやプロミネンスを眺めたりした後リハーサルを終えた。

10日の午後は、コナサーフホテルに出かけて協栄産業&交通公社や読売旅行のツアーの人達と情報交換したり、コナの町に出て町中が日食フィーバーになっている様子を眺めたりしていたが、天気は下り坂傾向で所々にわか雨に会った。コナサーフで会った協栄産業の岡村さんの話では、「ここ数日はワイコロア付近は早朝は晴れ、午後になると雲が広がるというパターンだが、今日は風の感じがこれまでと違うので明朝の天気は安心できない」とのことで不安になったきたが、かといってここに移動すれば確実という予想も難しく、さらに大勢で移動する手段もないので、明朝には雲が切れるのを祈るほかなかった。

11日の日食当日は、暗いうちに極軸を合わせようと3時に起床し機材を据え付けたが、天気はほぼ完全なベタ曇りで、極軸の合わせようがないまま空しく時間が経過して夜明けを迎えてしまった。明るくなるにつれて、周りには日食見物の人達が思い思いに機材を並べ始め、一方天気の方も天頂~西空にかけて晴れ間が広がり始め、期待感と盛り上がりを感じられる状態になってきた。第1接触の時には太陽は完全に雲の中だったが、半分ぐらい欠けたところで始めて太陽が顔を出し、拍手も起こった。その後は雲が薄くなったり濃くなったりの繰り返しの中で、焦りながら機材の調整を進め皆既の数分前に一応準備完了。しかし、天頂付近には晴れ間があるものの、太陽の方向は

薄雲がかかったままで第2接触を迎えた。

皆既になると太陽の上下のプロミネンスは鮮やかに眺められたが、コロナは薄雲のため明るい内部コロナしか見えない。皆既中の空はかなり明るく、時計やカメラの目盛り等もよく見える状態で、また地平線付近の空の色は透明度がいまいちのせいかあまり鮮やかではなかった。第3接触が近付くにつれて、薄雲はかえって濃くなってしまい、写真の方はほとんど期待できない状態のまま皆既が終わった。第3接触のダイヤモンドリングが終わった後は、せっかく好条件の日食を期待したのに残念という気持ちと、ともかくきわどいところで一応コロナが見れたんだという気持ちとで、複雑な思いであった。皆既中の雲の分布から考えて、もう少し北か東（海上）へ移動すれば雲を避けられ、内陸のワイコロア方面はもう少し雲が厚かった可能性が高いと思われた。

なお、天文ガイド9月号の表紙の写真は、ここでの皆既中の様子のスナップである。

翌12日の同時刻は、透明度も良好でパーフェクトに近い好天になり、前日の同時刻（聞いたところではその前数日も）も十分いい天気であっただけに、当日の天気の崩れはなんとも残念である。8cm屈折にニューカークフィルターを用いたコロナの撮影は、3駒程シャッターを押したが、プロミネンスは一応それなりに写ったものの、コロナの広がりには雲による減光のため極めて貧弱にしか写っていない。

ハワイへ行く前には、次は1999年の欧州日食と考えていたが、99年まで待たずに再挑戦したいというのが現在の気持ちである。